

国際婦人デー東京集会に寄せられた海外からのメッセージ
朝鮮民主主義人民共和国からのメッセージ
朝鮮高校の無償化実現に向け、世論喚起を！

在日本朝鮮民主女性同盟

国際婦人デーに際し、戦争反対と平和、女性の自由と尊厳を守るために粘り強く闘う皆さまに、心から敬意を表します。

日本の植民地から解放された直後、民族の言葉を取り戻そうと国語講習所からスタートした在日朝鮮人の民族教育事業は、七〇年を超える歴史を刻んでいます。

皆さまがこんにちまで、朝鮮学校の民族教育権を守るための闘いに連帯の意を表してくださいましたことに対し、衷心より感謝致します。

在日本朝鮮民主女性同盟は今年一月、国連こどもの権利委員会の対日審査に「朝鮮学校オモニ代表团」を送り、高校無償化実現に対する国際的な世論を高め、民族教育への差別の実態を広く訴えました。

二月七日「こどもの権利委員会」は、朝鮮学校が高校授業料の実質的な無償化の対象外になっていることについて、「ほかの外国人学校と同じように扱われるべきだ」として日本政府に「基準の見直し」を勧告致しました。

しかるに日本政府は、未だに、「朝鮮学校は当時の法令にのっとって定められた審査基準に適合すると認められず、無償化の対象にならなかった。生徒の国籍を理由とした差別に当たらない」としていますが、朝鮮学校と何らかかわりのない「拉致問題」などの「政治・外交的事由」を掲げ、朝鮮学校排除を前提に「省令改正」し差別していることにわたしたちは憤りを覚えています。

一月末に亡くなられた日本軍性奴隷被害者であり、人権活動家として闘ったソウル在住の金福童さんは、息を引き取るまで朝鮮学校の学生たちに心を寄せ、学生たちが朝鮮人として堂々と学ぶようエールを送ってくださいました。

東京、大阪、愛知、広島など各地で「朝鮮高校無償化」裁判が行なわれ、三月十四日には九州無償化裁判判決が言い渡されます。わたしたちは、朝鮮学校生徒の学習権保障のために、諦めずに勝利するまで運動を繰り広げていく決意を新たにしています。

排他か同化を迫る風潮の中で、わたしたちが立ち上がることができるのは、ひとえに日本の友人の皆様のご支援とご理解があつてのことだと心しております。

これからも共に手を取り合って闘いましょう！

(『思想運動』1039号 2019年4月1日号)